

「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」が実感できる授業づくり

～ICT 機器の利活用を通して～

大阪市立啓発小学校 研究推進委員会

1. 主題設定の理由

本校は、一昨年度から小中一貫校むくのき学園としてのスタートを切ると同時に、学校教育 ICT 活用事業モデル校としても研究に取り組んでいる。ICT 機器として、大型モニター（1・2 年教室、特別教室等）、電子黒板（3 年生以上の教室）、タブレット PC（3 年生以上に 1 人 1 台）、校内無線 LAN 等の環境整備も進んでいる。

授業での ICT 機器の利活用を通して、「視覚支援による学習意欲の向上」「視覚的なアプローチによる理解力の向上」「調べ学習、プレゼンテーション、新聞作り等場面に応じた情報活用能力の向上」の 3 点の成果が挙がってきている。また、学校アンケートをみると、「学校は楽しい」・「授業は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合も高くなっていることが分かる。

しかし、本校が行っている学期末・学年末テストの結果を見ると、基礎基本の定着に依然として課題が見られる児童が少なくない。また、全体的にあきらめず粘り強く取り組む傾向はみられるものの、論理的思考が苦手であることが表れている。そこで、これまでの取り組みの成果を踏まえながら、研究主題を引き続き『「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」が実感できる授業づくり ～ICT 機器の利活用を通して～』として、より一層の研究の深化を図ることとする。

2. 研究の視点

「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」が実感できる授業づくりを目指して、次の 3 つの視点から研究に取り組む。

ア. ICT 機器の効果的な利活用のある授業づくりの工夫

○デジタルーアナログのバランスを考えて、ICT 機器の利活用の精選を行う。

デジタルのよさをいかして

- ・画像や動画を使って、興味・関心を高める導入の工夫
- ・多様な情報の収集や加工がスムーズにおこなえるデジタル教材の作成
- ・記録や考えを短時間に集約し、意見交流を深める場の設定
- ・各学年や単元に応じた、情報活用能力の育成

アナログのよさをいかして

- ・ノートやワークシートへの記録
- ・具体的な操作や活動の保障
- ・学びの定着を図るための常掲の掲示物

イ. 思考力の育成・向上を図る授業づくりの工夫

○自分の考えをもち、それを表現していく力を育成する。

- ・単元全体を見通した導入の工夫
- ・子どもの意識を大切にしたい問題解決的な学習
- ・自分の考えを整理して、ノートやワークシートに書く活動

- ・お互いの意見を聞き合い、考えを深める場の設定
- ・まとめや感想など振り返る時間の保障

ウ．協働的な学びのある授業づくりの工夫

- 目的・課題意識をもって、協力してペア・グループ活動等ができるようにする。
 - ・多様な学習形態の工夫（ペア - グループ - 全体等）
 - ・話し方・聞き方の指導。
 - ・ハンドサインと話型

3．研究の成果と課題（成果＝○、課題＝●）

- 導入場面で、写真や動画を提示することで、授業にテンポをもたせ問題意識を高めることができた。提示の仕方によって、比較できたり、焦点化できたり等、様々な指導者の工夫が見られた。
- 板書 - ノート(ワークシート) - ICT を関連付けて、授業づくりをおこなった。観点やポイントが整理されているので、児童にとっては分かりやすく、思考の深まりがみられた。
- 「活かす」学習の目標を明確にすることで、単元を見通して意欲的に学習に取り組み、発展的な学習への移行がスムーズにできた。子どもの発言や考えをもとに掲示物を作成することで、学習の見通しをもてたり、学習内容をいつでもふり返ったりすることができた。
- 課題に対する自分の考えをノートやワークシートにまとめる活動をくり返したり、班で話し合う活動を取り入れたりすることで、少しずつ考える力がついてきている。自分の言葉で表現していくことへの抵抗感が減ってきたように思う。
- 話を聞く時には、自分と友だちの考えを比べながら聞いたり、相手の意図をとらえながら聞いたりするように助言した。その結果、「○○さんの意見と同じで、…。」や「○○さんの意見とちがって、…。」、「○○さんのいいたいことは、…。」等のように友だちの意見を受けて発言することができるようになってきた。
- 新たに Windows タブレットに変わり、各学年で基本ソフト(Word、Excel、PPT)に対してどのように情報活用能力を身につけさせていくのか、発達段階に応じた指導計画を明確に設定することができなかった。今後、授業実践等から系統表の作成が必要である。
- 考える道筋や意見の伝え方を指導し、定着を図っていく必要がある。低学年から各学級の実態に応じて、自分の考えを理由と根拠とともに、しっかりと発表できるようにしていく。
- 「話し合いの場」、「発表の場」が「意見を言うだけの場」にならないよう、発達段階に応じて、話し合いがしっかりできるよう指導を継続していく。